

## 第1097回教育委員会（定例会）会議録

公開

### 1 日時場所

平成30年12月19日（水） 午後2時  
県庁教育委員会室

### 2 出席者

池田教育長、山本委員、小林委員、齋藤委員、井口委員、三井田委員  
（事務局）石井教育次長、坪川教育次長、須貝総務課長、加藤財務課長、齋藤福利課長、  
大橋義務教育課長、藤澤高等学校教育課長、信田生涯学習推進課長、  
牛腸文化行政課長、今西保健体育課長、企画主幹、総務・財務・福利・  
義務教育・高等学校教育・生涯学習推進・文化行政・保健体育各課長補佐、  
総務課総務係長、総務課総務係主任

### 3 開会

午後2時

### 4 議事日程の承認

第1097回教育委員会の議事日程及び議事順序を承認した。

### 5 会議録（公開分）の承認について

第1096回教育委員会（定例会）会議録（公開分）を承認した。

### 6 議案審議

#### 第34号議案 技能労務職員の給与等に関する規則の一部改正について

事務局から、平成30年12月県議会において、一般職員に適用される給与条例の改正案が可決された場合、その改正内容に準じて当該規則を改正したい旨説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

### 7 その他

#### (4) いじめ対策総点検等の状況について

事務局から、いじめ対策総点検等の状況について報告があった。  
なお、次のとおり質疑があった。

山本委員

資料4ページの「3 今後の対応」について、課題の多かった学校には再訪問の予定との記載があるが、例えばどのような所が再訪

問の対象になったのか、教えていただきたい。

藤澤高等学校教育課長 「2 指導状況」(1)に記載のある保護者への連絡不徹底が見られた学校や、アンケートの実施方法に工夫を要するとされた学校について、点検の場では改善の指導を行っているが、その改善がなされているかどうか、再確認をしに行くというもの。

齋藤委員 資料4 ページ2(1)の部分で、アンケート実施方法の工夫が必要とされた学校が65校中19校となっており、結構な割合だと思うが、どのような工夫が必要とお考えか、具体的に伺いたい。

藤澤高等学校教育課長 例えば、アンケートを記名式にしている為になかなか意見が上がってこない、ショートホームルームの時間に全員がいる前で記入させすぐ回収している、アンケートの記入時間が適切でない等である。また項目についても、答えにくい内容の項目が入っている等の改善すべき点が見受けられた。

#### (1) 平成30年12月県議会における主な質問・答弁等について

事務局から、平成30年12月県議会において行われた主な質問・答弁等について報告があった。報告された事項は以下のとおり。

- ・ いじめ防止対策等について
- ・ 教員確保と勤務条件の改善について
- ・ 障害のある児童・生徒の教育について
- ・ 定時制高校・通信制高校について

なお、次のとおり質疑があった。

三井田委員 資料4 ページ1(2)の答弁の部分で、特別支援教育の免許状所有者に加点し、という記載があるが、採用試験の募集要項にもこの旨の記載があるのか。

大橋義務教育課長 募集要項にはその旨を明記している。募集要項に基づいて受験申請をして来た方に対し、確認する形をとっている。

三井田委員 大学で教員免許をとる段階で、既にこのことについて周知がなされているのか。

大橋義務教育課長 大学等にも周知・広報を行っているため、最近では学生等も割と多くとっている状況である。

### (3) 教育委員の学校・教育施設等視察について

各委員から、平成30年11月29日に県立高田特別支援学校、上越市立有田小学校及び県立上越総合技術高等学校において行われた視察の感想等が報告された。

山本委員

最初に伺った高田特別支援学校は創立51年目になるとのことで、設立の経緯から話を伺った。米百俵というのは聞いたことはあったが、こちらの学校では「米一升運動」というものがあり、地域の方達が米を一升ずつ持ち寄り、この地区に特別支援学校をと要望したことを受け、設立されたとのことであった。

小・中・高等部合わせて149名の生徒が在籍しており、それに対し教職員が118名おられるということで、多くの教職員による手厚い指導が行われていると感じた。

小学校は身の自立、中学校は社会への適応、高等部は就職訓練を中心に指導が行われており、平成29年の進路は卒業生徒21名のうち、福祉就労15名、一般就労5名、その他1名ということであった。21名中20名が何らかの就労に就かれており、学校が熱心に就職訓練をされた成果ではないかと感じた。

続いての有田小学校については、既存の1つの小学校の学区と、もう1つの小学校の一部の学区が統合され、今年4月に新設された日本で一番新しい学校だと伺った。少子化と言われている中で、こちらの学校は現在526名の全校生徒が、今後数年で750名程度に増える予定とのことであり、非常に珍しいことだと感じた。

また、鉄筋コンクリート造りであるとは思いますが、見た目は木造校舎のようになっており、至る所に木材が使用されている素晴らしい校舎であった。

さらに、全教室にエアコンが完備されており、廊下に設置されている多目的広場にも暖房が設置されているため、休み時間等は体育館ではなく、そちらでも多少のことはできるような造りとなっていた。

最も素晴らしいと感じたのは、当該地域が新興住宅街であり、共働きの若い夫婦が多いため、夜7時まで校内の放課後児童クラブで児童を預かっている点であり、保護者の方は非常に助かるのではと感じた。

最後に、上越総合技術高等学校についてだが、高田工業高等学校と直江津工業高等学校が合併して現在の校名になったと伺った。

機械・電気・建築・土木と一般的な4つの科を設けているが、生徒を募集する際はそれらを一括して「工業科」として募集をかけており、これは近年の少子化を受けての取組みでもあるとの説明であ

った。

また、1年時は全ての生徒が共通の科目を学び、2年に進学する際に機械・電気・建築・土木のコースを選択するとのことで、コース選択の際は本人、教員、保護者と三者により、生徒の成績や特性等を踏まえた上で判断をしているとのことであった。

進路については、平成29年度の卒業生232名のうち、進学が110名、就職が122名と約半数ずつであり、進学した生徒110名の内訳については、大学が46名、専門・各種学校が45名とこちらもおよそ半々とのことであった。進学については、特別枠（推薦枠）をとってくるのが重要とのことで、理由はこちらの高校が大学受験用の科目の時間を割いて、専門学校を教えているため、普通高校と比べた場合に科目的に不利であるため、とのことであった。こうした学校側の取組が、大学の進学者数につながっているのではないかと感じた。

いじめ対策総点検の視察については、高等学校教育課の指導主事2名が学校を訪問し、1名が生徒役、もう1名がチェック役を務めていた。事前にどの教諭の所に行くかは告げない形でグループワークを開始し、内容としては、生徒からSNSでいじめられているという相談を受けた教員が、状況を判断していじめ対策委員会を開くというものであった。時間の都合により、グループワークの全てを視察することが出来なかったものの、教員の方々が大変真剣に取り組んでおられると感じた。

井口委員

当日は所用があり、2箇所目の有田小学校から参加させていただいた。到着後、給食の試食をさせていただいたが、民間業者に委託して、学校の中で調理されているとのことで、大変温かい食事を食べさせていただいた。管理栄養士の方から色々と説明をいただいたが、非常に美味しい食事であると感じた。

先ほど委員が話されたとおり、新しい小学校ということで、国道8号線を境に、既存の春日新田小学校と南側の小猿屋小学校が合併して開校したわけだが、学校の新設にあたり、大きい小学校から来た子どもと小さい小学校から来た子どもがうまくやれるよう、実は2年程前から様々な工夫をしながら、合併に向けた取組みを行ってきたという話を伺った。やはり、簡単にポンと切ってくっ付ければできるという話ではなく、地元の理解を得ながら、また子ども達がきちんとスムーズに学校に入れるよう、色々な工夫をされてきたのだと感じた。

また、やはり非常に若い世代の多い地域ということで、放課後児童クラブ等で子どもを遅い時間まで預かるということをやっている点に非常に感銘を受けた。三世代で暮らす方があまり多く

ない地域であるという話も伺い、昨今の新しい住宅地はやはりそのような対応が必要なのかと感じた。

さらに、上越教育大学の教育ボランティアの方が小学校の運営を色々手伝っておられると伺い、なるほどと感じた。

上越総合技術高等学校については、2年生になる段階で色々な科に分けていくということであったが、クラスのキャパシティの問題もあり、上手に分けることがなかなか難しいとの話であった。私の知っている十日町周辺の高校の親御さんから、やはりコースを分ける際になかなか上手くいかないことがあるというような話を人づてに聞いたこともあり、そういった意味では、どの高校でも同じように、2年生になってコースを分けるということはなかなか大変なことなのかと感じた。

また、いじめ対策総点検を初めて拝見させてもらったが、このような作業を全ての学校でやられているということは、結構大変だと感じた。同時に、内容が非常に実務的であり、実際に子どもが来た時にどのような対応をするかということについて、チェックポイント毎にチェックをしていくだけかと思っていたが、かなりしっかりと確認されていることが改めて分かった。

さらに、この高校は部活動が大変盛んであり、伺った日はちょうどテストの終了日で、到着後1時間程するとバンドの活動が始まった。そちらを覗くと先生が1名、生徒が2名という組み合わせで部活動をしており、大変賑やかで、地元の祭り等にもよく呼ばれて演奏もされているということで、非常に地元に着した高校だということが理解できた。また、卒業生の多くが上越地域に就職するということが、地域に着した高校というものを見させてもらうことができたと感じている。大変参考になり、感謝している。

#### 齋藤委員

初めに、高田特別支援学校では小・中・高とそれぞれの授業風景を見せていただき、その年代ごとにのびのびと学習されていると感じた。生徒の数と教員の数を見た時に、一般の学校よりも教員の数が多いと感じたが、生徒一人一人の個性の違いもあると思うし、また寄宿舎も設置されており、そちらには専任の方以外に1日1名は教員が宿泊されているということで、そういったご苦労もありながら工夫をされていると感じた。寄宿舎は、施設自体は新しくはなかったが、清潔に管理されており、生活教育にまで密着した生活環境は、利用する生徒の皆さんの今後非常にプラスになるのではないかと感じた。

続いての有田小学校は、統合型新設校ということで、非常に新しく綺麗で、子ども達がこの環境の中で勉強できることは幸せであろうと感じるとともに、教室の廊下前には多目的スペースが設置され

ており、昔の学校の形とは変わってきているということも実感した。また、お手洗いや洋式がほとんどということで、時代に合った配慮がなされていると感じた。今後、児童数も増加する見込みという話も伺い、住居地域や生活圏がその時代時代に変化していく際に、今後の学校の立地も含め、有田小学校のような事例が増えてくるとなると、やはり廃校となる学校が出た場合の活用についても今後の課題になっていくのではないかと感じた。

上越総合技術高等学校については、カリキュラムの中にも特色があり、2年生から小学科を選択することができるということであったが、防災について学習する学科の希望が増えてきているということや、工業高校であっても女子生徒が2割ほど在籍している背景としては、住環境や色彩、インテリアなどが学べるコースがあり、人気の理由の1つであると伺った。

また、技術を習得するための一般的な工業系の機械設備も拝見したが、実際に社会に出た際には、そういった機械も現在ではIT化されている場合もあり、勉強してきたことと実務とのバランスで、指導も難しいという話を伺った。時代の変化とともに、学習内容や実習を変えていく必要がある一方で、機械設備についても、予算の点を踏まえるとなかなか難しい部分もある、という課題についても伺った。

さらに、いじめ対策総点検の模擬訓練を拝見したが、教員の方々も非常に緊張感をもって取り組んでおられた。対応や対策などについて書面ベースで理解をするよりも、実践を踏まえ、回数を重ねていくことで、より実感を伴って今後に繋がっていくのではないかと感じた。今回は指導主事による指導を受けながらの点検であったが、ぜひ学校単位でも模擬訓練を実施し、実感をもちた上でその時に備えていただきたいと感じた。

三井田委員

まず、高田特別支援学校については、小・中で身辺自立、生活自立、高等部で職業自立を目指して、将来を見据えて一貫性のある体験、経験学習を積むという指導がなされていることを印象的に見て参った。子ども達の様子も、自分の歩みでその経験を積んでいくという印象を受けた。教員の方が終始笑顔で、子ども達の気持ちに寄り添いながら過ごしておられると感じた。

続いて、有田小学校については、新しい統合新設校ということで、今ほど他の委員からの話にもあったが、トイレも全て洋式であったし、子ども達の身長に合わせたような手洗い場の配慮もなされていた。また、放課後児童クラブは校舎から外に出ずに行くことができるという、防犯上も、冬場でも心配がないような工夫がなされていた。地域連携室が設置されている等、色々な部分で工夫が感じ

られた。新しい校舎の中で、子ども達が元気に挨拶をしてくれ、その笑顔と有田地区の皆さんの希望や願い、そんなものが重なるようなイメージが持たれた。

最後に、上越総合技術高高等学校についてだが、様々な資格を取得することができ、専門性が高く、学んだことを生かしての就職、それも県内、特に上越地区に就職する方が多いということから、地域に貢献し、地域に根ざした学校であるという印象を持った。

訪問した日はちょうどテストの最終日であり、子ども達の授業の様子は見るができなかったが、たまたま見かけた女子生徒はスカートの子もいれば、スラックスの子もおり、防寒等の色々な意味で、今の時代に合わせた配慮がなされていると感じた。

また、いじめ対策総点検のワークショップを拝見したが、教員の方々が大変丁寧に子どもの気持ちに寄り添い、温かく対応しておられると感じた。ただ、職員室に生徒が来て教員に話をする場面、おそらく、その教員を信頼して相談に来たという設定だと思うが、部屋には他の教員の方もいたため、背中越しに話を聞かれていることを生徒はどのように感じるのかと少し思った。場面に応じて、相談の内容が深刻であったら、どこか個室に移動して1対1で話せるようにすることも配慮としてあってもよいのではと感じた。

3つの特色ある学校を見せていただいたが、いずれも上越地域に根ざした思いや歴史があり、地域との連携を大切にされているということ強く感じた。

池田教育長

今ほど委員から御指摘のあった点について、グループワークのシーンはいくつかパターンあるのか、又はたまたま場所がなかったため、背中合わせに他の職員がいる状況となったのか。

藤澤高等学校教育課長

学校に応じ、どこでグループワークを行うかはまちまちであるが、当時の状況について確認をさせていただきたい。

池田教育長

よく検討をした上で実施してまいりたい。

以上で、公開分の日程を終了した。

## 第1097回教育委員会（定例会）会議結果

非公開

- 8 公開分に引き続き、非公開と決定した議事に入った。
- 9 会議録（非公開分）の承認について  
第1096回教育委員会（定例会）会議録（非公開分）を承認した。
- 10 議案審議
  - 第36号議案 教職員の人事措置について  
中越地方小学校男性教諭の飲酒運転に係る人事措置（免職）について、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。
  - 第37号議案 教職員の人事措置について  
上越地方中学校女性教諭の窃盗に係る人事措置（停職）について、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。
  - 第38号議案 教職員の人事措置について  
中越地方小学校男性教諭の交通加害事故に係る人事措置（減給）について、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。
- 11 その他
  - (2) 平成31年度当初予算編成過程の公表について  
事務局から、平成31年度当初予算案の調整状況等について報告があった。
  - (5) 県立学校の生徒指導状況について  
事務局から、県立学校の生徒指導状況について報告があった。
  - (6) 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について  
事務局から、平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について報告があった。
  - (7) 教育行政上の諸課題について  
意見交換された事項は、特になし。
- 12 議案審議
  - 第35号議案 平成31年度県立高等学校教科用図書の採択変更について  
事務局から、平成31年度県立高等学校教科用図書の採択変更を行いたい旨説明があり、

現物確認及び審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

13 閉会

午後 3 時15分